

読んで考えるトラブル対応シミュレーション
人事労務の
リスク管理メモ

いま職場で起こっているリアルなトラブル事例集

2020年 12月号

YOU LOSE!

「だれ?あの人...」
「知らないの?人事部長だよ」
「人事部長!?見たことない気がする」
「職場に来ることは少ないからね」
「フーン、良いご身分なこと...」
「親会社から厄介払いされて、ここに来たらしい...」
「厄介払い!!?ちょっとそれって、私たちに失礼じゃない...?」
「親会社に居られない事情があったらしいよ」
「それで、ウチに来た...」
「それも、ただ来ただけじゃない...」
「ははあ...なるほど...」

AとBはお互い見合わせると、件のC人事部長へ目を向けた。そこでCは何やら怪しげな会話をしている。会話の相手は、仕事上の噂が芳しくないD係長だ。

「会社の創立記念パーティーに、君のような社員が参列するのは、いかがなものか...」

「来ない方が良かった、と?」
D係長は憮然としている。
「来るなど言っているんじゃない。自分自身で、参加するにふさわしいかどうか、考えなかったのか、と...」

「どういう意味でしょうか?」
「言葉通りだ」
「ふさわしいかどうか、考えて、参加を自分で決める、と...?」

「当然だろう」
「私はこの場に、命じられて来ているんです」

「誰に命じられた?」
「誰に、って...全員参加、と...」
「どこの誰が全員参加と言った?」
「例年、全員参加で、昨年も...」
「今年は?」

「...」
「全員参加と、君が命じられた?」
「...」
「何も言えないだろう...」

C人事部長は、得意満面で人差し指をD係長の鼻先に突きつけた。

「YOU LOSE!」
D係長は、俯いたまま、組み合わせた手に思わず力がこもった。

「君のような管理職がいるようでは、この会社も先が思いやられる」

「...」
D係長は、そのままその場から姿を隠した。
「ねえ、今の、聞いた...YOU LOSEだって...ブツ」
「C人事部長の決まり文句...」
「へえ~」

「あんなふうに、自分の気にいらぬ社員に難癖をつけて、退職に追い込むんだ」

「でも、Bはよく知ってるね...」
「まあね...前の上司がCに追い出されたから...」

「そうなんだ...YOU LOSE、って...」
Bは腕組みをしたままため息をつくと、天井を仰ぎ見た。Bには、次は自分だ、という根拠のない確信があった。うつになって休職した後、復職と同時に今の子会社に移って間もなく、自分を追いかけるようにCが人事部長として異動してきたからだ。

「ねえ、どうしたの...」
「...あ、いや、別に...」
「何か、考えてたね...」

「...Cが難癖をつけるのは、こういうパーティーとか、飲み会の席みたいな、業務外の他愛ないおしゃべり...」

「たちが悪いね...」
「...それで雰囲気壊す。言われた相手は、いたたまれずにその場を去る。その繰り返しで、自主退職...」

「なんか、腹が立つね。あいつに向かって、YOU LOSE!って言ってやりたい」

「それ、面白いかも...Cは、いったいどんな顔するかな?」

「その場から退場させたいよね」
「ずいぶん楽しそうだね」
「じ、人事部長...」

「間もなくビンゴゲームだ。特賞は現金10万円だぞ」

C人事部長の不釣り合いなテンションの上がり方に、AとBは白けていた。
「現金10万円が当たったら、君はそれをどうする?」

Cにいきなり話を振られて、Aは困惑した。Bは目くばせで、相手にするな、のメッセージを送っている。

「洗濯機でも買いますか...」
「洗濯機!?君は何て浅はかなんだ」
「はあ...!?何かまずいんですか?」

「洗濯機なんて買ってどうする?」
「...どうする、って...」
「そんなものを買っても経費で落ちないぞ」

「はあ!?...経費がどうか、関係ないじゃないですか」
「それが浅はかというんだ。君は経理担当だろ」

「ビンゴの賞金で何を買おうと自由でしょ!」

「それはもちろん君の自由だ」
「買ったものに、会社の領収書をもらって来い、と言うんですか?」
「そういう無粋なことを言うな」
「C部長がそう言わせてるんです」
「しかしセンスがない」
「はあ、今度はセンスですか...?」
「洗濯機では、あまりに夢が無い」
「じゃあ、何て答えればいんですか?」

「そこで君のセンスが問われる。私をうならせる答えが出るかな」

「...」
「何も言えないだろう。YOU LOSE!」

このやり取りを聞いていたBはいたたまれず、俯いていた。だがAは違っていた。

「C部長、あなたのしていることは、パワハラです!」
そういうなり、興奮気味のAは、Cの鼻先に人差し指を突き付けた。

「YOU LOSE!」
この後何が起こるのか、Bは卒倒しそうだった。だがC人事部長は、大人の対応で、これを交わした。

「ホーッ、これは痛快だ。私に対して、YOU LOSE、と言ったのは、君が初めてだよ...A君と言ったかな、よく覚えておく」

そういうと、Cはその場からそそくさと立ち去った。Cの顔は、心なしか紅潮していた。

「あー、スッキリした...」
「Aちゃん、まずいよ」
「そう...?」

「きっと何か報復がある」
「でも、いろいろ考えてもしかたがないから...でも、面白かったでしょ」

「...」
BにはAの楽天的な性格がうらやましかった。

翌日Bが出社すると、入り口でC人事部長と鉢合わせをしてしまった。Bにとっては何ともバツが悪い。

「おはようございます」
「おはよう...おや、元気がないね」

朝からCと顔を合わせて、気分が良い訳がないだろう。

「しかし、昨日は痛快だった...」
重苦しい展開になりそうな予感で、胸から嫌なものがこみ上げてくる。

「君の指示かね?」
「...」
「なかなか度胸がある。君には無いものだ」

「...」
「ああいう社員を人材というんだよ」

Bはだんまりを決め込んだ。Cは難癖をつけることしかないから、話をするだけ疲れることも分かっている。

YOU LOSEでも何でも言ってくれればいい、そんな相手をやる気持ちは、Bには毛頭ない。そんなBの気持ちを見透かしたように、Cが続けた。

「君には、YOU LOSE、とは言わない。
言ってもつまらないから」
人を小ばかにするのはCの性分だ。
「それより、君に話がある、ちょっと
いいかい...」

そういうと、C人事部長はBを応接
に促した。Bは嫌な予感が的中したこ
とを落胆した。こんなときAなら、何
と言うだろうか、などと思いを巡らせ
ていると、Cが切り出した。

「君に異動の話がある」
「い...異動...!？」
「復職をしたものの、この職場が合わ
なかったのだろうか...」
「今、何も問題はありますが...」
「相変わらず元気もないし」
「...」

「人とあまり関わることの無い職場に
移った方が、君にも良からうと...」

まさか、Bのかつての上司が送ら
れ、そしてD係長も異動すると噂の、
あの無言の職場、E事業部...

「異動は必要ないかと...」
Bにとって精一杯の反論だった。し
かしCの返答はにべもない。

「異動が必要かどうかは、会社が判断
する」

「ですが...」
「ですが...!？」

C部長はBをギロリと睨み返した。
「ですが、何だ？」

「...」
悔しいけれど、Bにはこれが精一杯
だった。

「結局何も言えないか、フン... YOU
LOSE！」

Bはあふれる涙をこらえきれない。
「ほら、やっぱり不安定だ。再発して
るんじゃないの？」

「そんなことはありません」

Bは力なく答えた。グループ企業の
墓場とまで言われているE事業部への
異動を仄めかされ、動揺しない社員は
いない。

「残念だったな。Bがもう少しうまく
立ち回れば、よかったのになあ...し
かし、今日のBは面白かった。思わず
言わないいつもの、YOU LOSE、を言っ
てしまった。ハッハッハ...」

人をコケにして、何が面白かった、
だ。Cに対するこれまでに感じたこと
が無かったような憎悪の感情が込み上
げてくる。絶対に復讐してやる...

E事業部は、想像以上の職場だっ
た。異動後の入社初日から、新任の挨拶
どころか、仕事の指示すらない。そも
そも誰が上司で、誰が責任者なのか
すら分からない。

どこの席に座っているのかも分から
ないBは、とりあえず空いている席に
着いたが、その刹那、どこからともな
く大声で怒鳴られ、仰天した。

「誰が課長の席に座れと言った!!」
「すみません...では、どこに...」

「お前の席はない!!」
「はあ...!？」
「何だ貴様、それが口の利き方か!」
「...」
「外にでも立ってろ!」

何なんだ、ここは...それに、あの暴
言は、一体何者!? Bはなすすべもな
く、ただ茫然と廊下で立ち尽くしてい
た。その間も、そんなやりとりに目も
くれず、職場ではみんなが黙々と、パ
ソコンのキーを叩いている。Bはいた
たまれず、一番そばの席に座っている
スタッフに声をかけた。

「私、どうすればいいんでしょう?」
しかしそのスタッフは一言も発せ
ず、黙々とパソコンに向かってい
る。チツ、無視か...などと思っていると、
おもむろに一枚の紙を差し出した。

「ここは会話厳禁。お願いだから、話
かけないで!」

どういうこと...つまり同僚同士の横
のつながりを絶つ、ということか...B
は直感でそう判断した。これからどう
すべきか、などと考えていると、あの
暴言の主が手招きをしている。不思議
なことに、Bにはこのときに何の恐怖
も感じなかった。会議室に入ると、件
の主はいきなり怒鳴り始めた。

「貴様、何様のつもりだ!ここは会話
厳禁だ!出社早々に...」

とその直後、携帯の着信が鳴った。
となりのトトロ...!?そのあまりのアン
バランスさに、Bは吹き出しそうに
なるのを、必死でこらえた。でも体形
は確かにトトロだ。

「ちょっと待ってろ!」
そう言うなり部屋を出ると、隣の部
屋に入ったらしい。

「暴言は厳禁だと言ったはずだ!」
「すみません...」

トトロが謝っている!?相手は誰?
会話が不用意にも突抜けた。

「この職場の実態は、絶対に隠し通さ
なければならぬ。お前は分かっている
のか?」

「...」
「不用意に問題を指摘されるような事
実を残してはならない」

「...」
「この伏魔殿の扉が開かれれば、お前
も、私も、明日はない」

「...」
「また、だんまりか...YOU LOSE!」

YOU LOSE!って、C部長!?何でC
部長がここに...!?E事業部を事実上
管理しているのはC人事部長だったの
か...しかしC個人の勝手な判断で、こ
んなことができる訳がない。おそらく
親会社にCの後ろ盾がいることは間違
いないだろう。だがそんなことはBに
とって、どうでもよかった。所詮Cも
トカゲの尻尾だ。さっさと切られてし
まえ!Bは心の中で、Cに叫んだ。

「YOU LOSE!」

当事者の真意を読み取り、問題に対す
る認識のギャップを埋め、話をつなく
オフィスハラダの
「社外相談窓口」

<https://officeharada.org/helpline/>

オフィスハラダが運営するハラスメント
相談窓口は、開設以来十数年、年間千
件を超える相談対応実績があります。
ご相談内容は、ハラスメントに限らず、
多方面のテーマにまたがる多岐に渡る
内容ですが、いずれのご相談にも一貫
して変わらない対応は、「問題の社内
的解決を第一に考えたアドバイスに徹
している」ということです。

労使の対立関係を前面に押し出さ
ず、いかにすれば平穏迅速に、問題の
収束を図ることができるか、この点に
最もエネルギーを注ぎます。なぜなら
ば、問題の社内的な解決は、労使双方
にとって、物心両面にわたる負担とスト
レスを最小限に抑える方法であり、最
も望ましいものだからです。

この相談窓口を御
社の社外相談窓口と
してご活用ください。
詳しくはウェブで、携
帯からは右のQRコー
ドをご覧ください。



必要な時に、必要なサポートを、必要な
だけ。これがオフィスハラダの
「相談顧問」

<https://officeharada.org/consulting/>

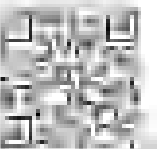
人事・労務に関するお悩み・疑問をスッ
キリ解消します。

労務管理の改善提案をします
就業規則などの諸規程の作成・見直し
をサポートします。

トラブルの未然防止を図ります。
万が一の問題発生時には、平穏迅速
な解決を促進します。

「今すぐ相談したい!」...下記 URL
<https://officeharada.org/consulting/contact/>

からすぐにご相談
頂けます。初回ご
相談メールは無料
です。携帯からは
右のQRコードでご
覧ください。



「人事労務のリスク管理メモ」

記事内容についてのご意見・ご質問は
e-mail : info@officeharada.org

TEL : 050-3301-6118
FAX : 050-3730-4575

定期購読(無料です!)はお気軽に...
詳細は <https://officeharada.org/nl/>

バックナンバーも掲載中!ご覧ください

発行: 社会保険労務士オフィスハラダ